

## インフォシス、世界の急成長 IT サービス・ブランドの認定、 世界中の各種セクターでの急成長ブランド・トップ 25 に選出

『Brand Finance Global 500 2022』ランキングでインフォシスの順位は 56 ランク上昇、前年比ブランド価値は 52% 上昇の 128 億ドル (約 1 兆 4786 億円) へと躍進

バンガロール (インド) - 2022 年 1 月 26 日:次世代デジタル・サービスおよびコンサルティングの世界的リーダーである [インフォシス](#) (NYSE: INFY) は、本日、世界的なブランド価値評価会社 [Brand Finance](#) の [Global 500 2022 レポート](#)で、急速に成長している IT サービス・ブランドとしての評価を獲得したことを発表しました。このブランド価値評価では、インフォシスのブランド価値は飛躍的な成長を遂げ、前年比ブランド価値は 52% 上昇、2020 年からは 80% の上昇を記録し、最も価値ある IT サービス・ブランドのトップ 3 を獲得しました。

「当社のお客様は過去 2 年間に急速にデジタル導入を拡大しており、変革を支援する当社の能力には、絶大な信頼と確信をお寄せいただいています」と、**インフォシスの最高経営責任者 Salil Parekh** は述べ、次のように続けます。「こうしたお客様の信頼に、当社の従業員は並外れた努力で応え、当社の差別化要因であるデジタルやクラウド能力の優位性を生かしたイノベーションの高速化と拡大を実現し、変化しつつある経済・ビジネス環境においても、お客様が引き続き競争力を発揮できるよう支援しています。このことが、業界で選ばれるデジタル変革パートナーであるインフォシス・ブランドの地位を盤石にするための、好循環を招いているのです。」

「インフォシスが今年見せた成長は印象的なものでした。2022 年の急成長 IT サービス・ブランドの評価を獲得できたのは、顧客への尽力とイノベーション重視の姿勢によるものです。COVID-19 パンデミックにより、世界中でデジタル移行の必要性に拍車がかかる中、インフォシスはチャレンジに挑み、その結果過去 2 年間で 80% のブランド価値上昇という記録を打ち立てました。また、将来を見通してインフォシスは注目すべきブランドであり、今後数年間に継続的なブランド価値



の成長を遂げると予想できます」と、**Brand Finance** の **会長兼最高経営責任者の David Haigh 氏** は述べています。

Brand Finance はインフォシスのブランド価値の成長とブランドの強みを、全社一致の努力により、顧客を取り巻く状況に深く浸透するブランドを構築し、また信頼性の高い変革エンジンとして尽力した成果であると説明しています。こうした熱意を実現するため、当社は継続して新しいデジタル・ブランドへの投資を行ってきました。企業のクラウド・ジャーニーをシームレスでセキュアな方法で高速化するクラウド・サービス・ブランドとして業界をリードする Infosys Cobalt の成長は、昨年だけを見ても、今まさに市場に求められるブランドを醸成するというインフォシスの姿勢をよく表している事例です。従業員のための重要な学習機会、成長の軌道と目的の明確なキャリアパスを特徴として高度に差別化された雇用者ブランドを育てることは、インフォシスの重点事項の一部です。

また、当社は複数のデジタル協業およびブランド協業に対する戦略的な投資を行っています。これにはインフォシスとマディソン・スクエア・ガーデンのシグニチャーマーケティング・パートナーシップが含まれます。その一環として、インフォシスはニューヨーク・ニックス、ニューヨーク・レンジャースおよびマディソン・スクエア・ガーデンアリーナをはじめとする MSG の保有資産のデジタル・イノベーション・パートナーとなっています。さらに、インフォシスは ATP、全仏オープン、全豪オープンとの協業を継続的に促進し成功を収めています。一方で、エコノミスト、フィナンシャル・タイムズ、ブルームバーグ・メディアとの新たな協業も強化しています。

堅牢な環境、社会、ガバナンスのための課題を推進する、責任ある企業市民としてのインフォシス・ブランドの成熟度の高まりは、2020 年の ESG 2030 ビジョンのグローバル・ローンチにより促され、またパリ協定で定められた期限である 2050 年よりも 30 年間早くカーボン・ニュートラルを達成したことに支えられています。インフォシスの持続可能な ESG 重視の姿勢を表すもう 1 つの事例に、当社のフラグシップであるグローバル・リスキング・プログラムの Infosys Springboard が急速な進展を見せたことが挙げられます。このプログラムは、無償のデジタル・コンテンツで学習を民主化し、2025 年までに 1000 万人を上回る受講者がデジタル・スキルを身につけられるよう支援するものです。

## インフォシスについて



インフォシスは次世代デジタル・サービスとコンサルティングのグローバル・リーダーとして、世界 50 개국でお客様のデジタル変革を実現しています。40 年以上にわたるグローバル企業のシステム・業務管理の実績に基づき、専門家としてお客様のデジタル・ジャーニーを推進します。変革の優先順位の判断において、当社では企業が AI を導入したコアを利用できるようにしています。また、ビジネスにアジャイル手法とデジタル化を大規模に導入することで、かつてない高いレベルのパフォーマンスと顧客満足度を提供いたします。当社の常に学ぶ姿勢は、デジタル・スキル、専門知識、および当社のイノベーション・エコシステムから創出されるアイデアの確立と移転を通じて、お客様の継続的改善を実現しています。

インフォシス (NSE、BSE、NYSE: INFY) が次のステージへと進む企業を支援する方法については、[www.infosys.com](http://www.infosys.com) をご覧ください。

### セーフハーバー条項

本リリースに掲載されている報告書の一部は、1995 年私募証券訴訟改革法の「セーフハーバー」条項の適用を意図した当社の将来的な成長と今後の配当、財務的期待、当社の従業員、顧客およびステークホルダーへの COVID-19 の影響を管理するための計画を予測するものであり、そこには多くのリスクや不確定要素が介在しているため、実績と大きく異なる場合があります。このようなリスクおよび不確定要素としては、COVID-19 に関連するリスクと不安定要素、その拡散を抑制するための政府およびその他の対策の効果、インド、米国、世界のその他の国々の景気低迷や不況に関連するリスク、政治、ビジネスおよび経済環境の変化、収益や外国為替相場の変動、当社の成長管理能力、費用効率に影響する可能性のある IT サービス分野における競争の激化、インドにおける人件費の高騰、高い技能をもつ専門的な人材を確保する当社の能力、固定価格・固定時間による契約における時間や経費の超過、顧客の集中化、出入国制限、業界セグメントの集中化、国際業務を管理する当社の能力、当社の主力分野であるテクノロジーの需要低下、通信ネットワークの崩壊あるいはシステムの故障、企業買収を成功させる当社の能力、当社サービス契約に対する損害賠償責任、戦略投資した企業の業績、政府援助の打ち切り、政治不安および地域紛争、インド国外での増資・企業買収に対する法的制限、当社知的所有権の不正使用、この業界に影響を与える経済情勢などが考えられます。将来の営業業績に影響すると考えられるその他リスクについては、2020 年会計年度年次報告書 (Form 20-F) を含め、米国証券取引委員会へ提出された当社報告書に詳細に記載されています。これらの報告書は、[www.sec.gov](http://www.sec.gov) でご覧いただけます。当社は、米国証券取引委員会および株主への報告書内の情報を含め、書面または口頭で将来の展望を随時発表する場合がありますが、法律により義務付けられている場合を除き、随時発表する将来の展望について更新する義務を負わないものとします。

### お問い合わせ先

マーケティング担当 安藤 [mktg\\_jp@infosys.com](mailto:mktg_jp@infosys.com)